



令和2年10月28日

(議員名) 植原 泰



実施報告書

下記のとおり実施したので報告します。

| | |
|--------------|--|
| 実施項目の名称 | 第2回 坂出市議会会派合同研修会 |
| 実施場所 | 坂出市役所 4階 委員会室 |
| 実施日時 (期間) | 令和2年10月20日(火曜日) 10時00分～11時30分 |
| 参加議員名 | 植原 泰 |
| 実施内容の概要 | 議会活性化や資質向上を図るため、全会派及び無所属議員3名の共催により、第2回会派合同研修会を開催した。 内容等は別紙のとおり。 |

※ 参考となる書類があれば、添付して下さい。

研修会日時：令和2年10月20日 午前10時

参加者：植原 泰

講師：古川 尚幸（香川大学経済学部教授）

演題：「域学連携の現状と課題～香川大学経済学部の取り組みを事例として～」

2020年8月総務省が公開した7月の人口移動報告で、集計に外国人を加えた2013年7月以来初めて、東京圏からの転出が転入を上回った。これはコロナの感染拡大が影響しているのかもしれないが、これまで同様、今後も大都市圏への人口の集中が見込まれる。そして、少子高齢化が進む中、地方都市の衰退・過疎化が進み限界集落の増加が見込まれ、地方創生により地方の人口減少に歯止めをかけ、東京一極集中の是正が謳われている。だが、人口減少で地方への定住人口増が難しいことから交流人口や関係人口を増加させ、都市部の住民に地方とのつながりを持ってもらい、地方都市へ足を運んでもらいその街で活動してもらおうという地方創生・地方共創が考えられている。

こうした考えは増田寛也氏の「地方消滅」で示された2040年頃には全国の市区町村の半分近い896のまちが消滅の危機にあると言われてことに起因しており、人口減少により、地方の空洞化が進み農林地の荒廃、集落機能の脆弱化からその地に住むことへの意味や誇りを失ってしまう危機感が言われた。また、小田切徳美氏は、住民の参加の場を増やし、お金の循環や暮らしのものさしをつくって、外部から来た人が内部の方からは気づかない地域の価値を見出して頂く手法で地方の発展をしていこうと提案されている。一方で、レスターC.サロー氏は若者を外から引っ張ってくるのではなくその地域にいる若者を留めることだとも言っていて、私もこの考えに賛成で、議会でも都市部の有名大学の誘致活動の推進を訴えたこともあります。

全国に86ある国立大学では、2016年度から世界最高水準の教育研究を行う大学、特定の分野で世界的な教育研究を行う大学、地域活性化の中核を担う大学の3つに分類した。香川大学は、地域活性化の中核を担うことを選んだ。そこで経産省が提唱する社会人基礎力を高める人づくりと大学教員と学生が地域に入り、住民やNPOとともに地域が抱える課題を解決したり、継続的に地域活性や人材づくりにかかわったりしていく域学連携を進めている。これは地域にとっては大学の持つ情報やノウハウが利用でき、不足しがちな若い人材が活用でき地域活性につながり、大学としては実践の場が得られることで研究活動へのフィードバックが期待でき、学生の育成もできるものである。

今回の研修をきっかけに坂出市には観光資源としての瀬戸大橋の活用やコスモ石油跡地や緑地帯、商店街の空き店舗・イオン坂出などの活用、4つある高校や大学の活用に取り組んでもらいたいという話でした。